

経済同友会特別協力

東北未来創造イニシアティブ 人材育成道場 本格稼働

～気仙沼市、釜石市、大船渡市にて事業家育成のための塾を展開～

産官学が連携し、東北被災地の自立的復興を支援する「東北未来創造イニシアティブ」は、経済同友会の協力により、昨年春より民間企業出向者19名を受け入れ活動を本格化させた。出向者は、気仙沼、釜石、大船渡の各市および仙台・東京の事務局に着任し、自治体の復興計画の具現化支援と人材育成道場の運営に当たる。その活動の進捗を紹介する。



経済同友会が特別協力を行う東北未来創造イニシアティブは、地域の未来を担う人材育成に向け、昨年4月に気仙沼、8月に釜石・大船渡で、地元事業家を対象に半年間の塾を開講した。

先行する気仙沼市では、第一期経営未来塾に塾生16名が集い、トーマツ、マッキンゼー、博報堂、日本政策投資銀行、ISLといった有志企業から派遣された専門家との対話を通じて、事業再構築に向けた自身の行動プランの策定に取り組んだ。

昨年10月13日の卒塾式では、塾長の

長、大滝精一東北大学経済学部長や菅原茂気仙沼市長、地域関係者や一般市民120名を前に、塾生が半年間悩みながらも学び、練り上げた各々の事業構想をスピーチし、地域のリーダーとしての思いを語った。

8月に開講した釜石市・大船渡市の第一期未来創造塾では、陸前高田市、大槌町など近隣地域からも塾生が参加し、事業家、NPO代表や市職員など、22名の多様な若手リーダーが集い、セクターを越えて切磋琢磨している。

東北未来創造イニシアティブは、この塾のほかにも、自己啓発と自立への

挑戦の機会を求める一般市民に向けた「未来創造フォーラム」もスタートさせ、第一回はマッキンゼー、第二回は博報堂から派遣された講師が、それぞれ100名の参加者を対象に講演を行った。今後も有志企業や個人からの協力を得て、開かれた学びの場を提供していく。

震災発生から間もなく3年、この三陸沿岸地域において、復興の鍵を握る地域のリーダーが集い、共に地域の未来を展望する場を提供する東北未来創造イニシアティブの活動に、地元の期待が高まりつつある。

人材育成道場を支える有志(イニシアティブ発起人)の声

山梨 広一 東北未来創造イニシアティブ
協働委員会 副委員長
(マッキンゼー・アンド・カンパニー・インコーポレイテッド・ジャパン ディレクター)

誇りと熱さ…。塾や公開フォーラムで気仙沼、釜石、大船渡の皆さまと一緒に考え、議論する場で、一番強く感じたものです。自身の事業と地元に対する誇り、それらをより素晴らしいものに生まれ変わらせようという情熱。一人ひとりにとって、自身の事業と地元とが一体となって復興の道を歩んでいることを痛感しました。



谷藤 雅俊 氏

(有限責任監査法人トーマツ パートナー
公認会計士 仙台事務所長)

「塾」はまさしく守破離(道を極める創造的過程)です。師匠から考え方(型)を学び(守り)、自分の本心と向き合い、自分自身の型を破るとともに、型から離れて自在になる。塾では、メンターも塾生も見取り稽古する者も、自らに内在する能力が引き出され、自分の力で昇華する。これぞ日本人創りです。

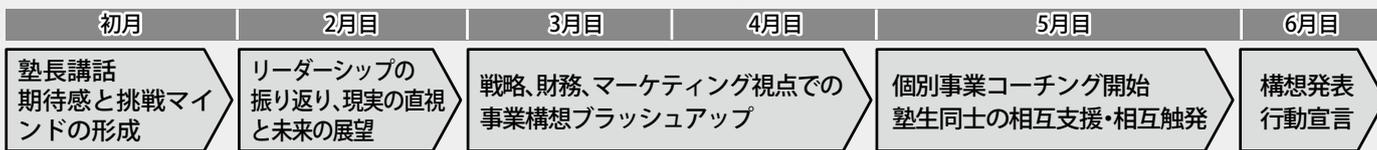


塾の全体像

人材育成道場の概要

- 対象 象：事業を拡大・再構築したいという、次代を担う若手事業家、NPO代表など
- 対象地域：気仙沼市、南三陸町、釜石市、大船渡市、大槌町、陸前高田市、住田町(2014.1月現在)
- 人数：地域毎に10~20名程度
- 期間：6カ月
- 講師：トーマツ(事業構想、個別事業コーチング)、マッキンゼー(戦略)、博報堂(マーケティング)、日本政策投資銀行(経営財務数字と資金調達)、ISL(リーダーシップ)

塾の進め方



気仙沼 第一期卒業塾生の声

清水 敏也 氏 第一期 塾頭
(八葉水産 取締役社長)

震災前からこの地域は課題が山積していました。この解決なくして真の震災復興はありません。塾のセッションはどれも素晴らしい内容で、会社の経営はもとより、自分の生き方そのものや地域・社会へのかかわり方を考え、これからの復旧から復興に向かう勇気と希望、覚悟の大切さを私たちに刻んでくれました。



足利 宗洋 氏
(足利本店 取締役社長)

経営は不安を抱きながら一寸先の光を目指し、勇気を持って歩き続けることが大切であり、周りに自己の思いを伝え共感させることがヒトの心を動かすことだと学びました。以降、自分の考えを社員に伝えるための場を多く持つようになりました。また、歩み続けることで、経験したことのない高みを味わいたいと思うようになりました。



気仙沼・経営未来塾卒業式にて

釜石・大船渡 第一期現役塾生の声

青木 健一 氏 (青紀土木 専務取締役)

課題に向き合う中、豪華な講師陣、本気で伴走して下さる出向者のおかげで、真のリーダーについて学び、見えないものを見ようと挑戦する勇気を頂きました。そうした決意を持つ若者が増えることこそが、被災地と呼ばれるこの地域の未来を切り開く希望の光になると信じています。



大船渡での博報堂によるマーケティング・ワークショップ

佐藤 大基 氏 (大船渡市役所 災害復興局大船渡駅周辺整備室)

私は行政からこの塾に参加しています。地元経営者の方々と、立場を越えて地域の未来を考える日々で、大きな刺激を受けています。より広い視野から自分がなすべきこと、実現したいことを考え、ここで得たビジネスの素養や民間の視点を今後の行政サービスに活かし、実践することが私のテーマです。



武蔵 和敏 氏 (カメリアン・プロダクツサービス)

塾に参加させていただき大変感謝しています。素晴らしい講師陣とスタッフが私の夢を形にするために伴走して下さっており、大変心強く感じます。被災した陸前高田市で裸一貫起業しますが、必ずや成功を収め、一歩を踏み出した私の勇気が人々にも伝播し、一人でも多くの「熱血気仙人」が生まれることを願っています。

